



JICHI MEDICAL UNIVERSITY
SAITAMA MEDICAL CENTER
自治医科大学

さいたま医療センターだより

TEL.048-647-2111 FAX.048-648-5180 URL : <http://www.jichi.ac.jp/center>



(さいたま市・大崎公園)

センターだより 第25号 ご案内

- さいたま医療センターの今(川上正舒センター長)
- 周産期医療を開始しました(産婦人科 今野教授 小児科 市橋教授)
- スタッフ紹介(糖尿病療養指導士 薬剤部 大塚副部長)
- くすりの小窓・・・第3回 湿布薬について
- お知らせ・・・ご協力に感謝/センター内での携帯電話・PHS のご使用について
南館6階整備工事の開始について/看護職員の募集について

さいたま医療センター 理念・基本方針

理 念

1. 患者中心の医療
2. 安全で質の高い医療
3. 地域に根ざした医療
4. 心豊かな医療人の育成

基本方針

1. 患者の皆様を尊重し、開かれた安心できる医療を提供します
2. チーム医療を推進し、安全で質の高い医療を提供します
3. 地域との連携を深め、基幹病院としての役割を果たします
4. 地域医療に貢献する医療人を育成します



さいたま医療センターの今

センター長 川上 正舒

周産期医療の開始

当センターは埼玉における医療への貢献と、日本全国各地の地域医療に従事する自治医科大学卒業生の生涯教育の拠点となることなどを目的に平成元年に設立されました。急性期の循環器疾患を中心とする高度先進医療の提供を特徴の1つとして6診療科、病床数85床で診療を開始しましたが、その後、少しずつ診療範囲を広げ、平成20年度には産科、小児科の診療を開始し、現在、許可病床数608床、16診療科を擁するさいたま市の中核病院と言われるまでの施設に成長させていただきました。本年5月からは、小規模ながら周産期センターも活動を開始いたしました。この周産期母子医療センターは、さいたま市およびその周辺地域から、長年にわたりその開設を求められていたもので、当センターでは2年前の南館完成にともない、同年10月より産科、小児科の診療を開始し、同時に低体重新生児についても1500g程度以上のお子様については診療を行っておりましたが、この度、正式に周産期母子医療センターとしての看板を挙げさせていただきました。現在のところ未だスタッフの確保が充分できず、超低体重児の診療について必ずしも万全と言える状況ではありませんが、少しでも地域の周産期医療の充実に貢献できるようになったことを嬉しく思っております。

高度医療の提供

1500gあるいは1000gにも満たない超低体重児のお世話ができるようになったということは、医療の現場に身を置く私自身にとっても大変な驚きであり、また、同時に、医療のあるべき姿について色々と考えさせられることでもあります。当然ではありますが、新生

児の医療に限らず、医学・医療のあらゆる領域で、近年の知識及びその周辺技術の進歩は目覚ましいものがあります。私が医師として仕事を始めた頃にCTが使われ始めましたが現在の画像は当時のものとは比較にならない程鮮明です。超音波画像や胃腸や気管支の内視鏡検査もその機能には雲泥の差があります。検査を受ける方々の当時の苦痛も現在の技術に慣れてしまった今日では想像できないほどでありました。このような知識や技術の恩恵に与ることができることは大変に喜ばしいことですが、それに伴い医療の提供の様式にも大きな変化が要求されています。診断の精度に対する患者様の要求も時には技術の進歩を超えるほどであり、また、それぞれの器械や装置はテレビや自動車といった一般に使われている高度な工業製品と比較してもかなり高額です。従って、これらの装置を用いてその時代に沿った高度医療を提供するためにはかなりの知識に加えて経済的な負担が強いられます。これは、勿論のこと当センターに限らず、高度先進医療に従事する医療施設の多くが、有能な専門家の確保に加えて経済的にも大変に苦しい運営を強いられていることは新聞などのマスコミでも取り上げられているところです。

医療従事者の確保

医療従事者の確保については、マスコミで頻回に取り上げられているように非常に難しく、医師や看護師の不足により閉鎖に追い込まれている病院が少なくありません。当センターは経済的な面を含めて幸いなことに現在のところ閉鎖を検討せざるを得ないほどではありませんが、例外というほどに余裕があるわけでもありません。特に、当センターのよ

うに高度医療の提供を目標としている施設では、ことさらに優秀な人材を必要とすることから医療従事者の確保にはどの施設でも大変に苦勞しております。この点につきましても、当センターは優秀な人材を揃えているという観点では認めていただけるのではないかと自負しておりますが、いかんせん数においては目標に程遠く、そのため、外来診療での待ち時間はもとより入院や手術でさえも場合によっては月の単位でお待ちいただかなければならない事態となっていることは大変に心苦しく思っております。医師、看護師の不足については、医学部学生の増員、外国の看護師の誘致などの政策が取りざたされるなど国全体としても大きな問題となっておりますが、私達としては、そのような先の長い計画を漫然と待つということだけでなく、各部署でそれぞれ様々な工夫をして可及的に少しでも改善できるよう努力しているところです。外来診療の待ち時間については、多くの方々から度重なるお叱りを受けているところです。個々の事情は様々ですが、明らかに患者数が過剰である診療科、医師の事情も看過しているわけではありませんが、上記のように人材の確保は極めて困難な課題の1つであります。この解決策として、かかりつけ医との密接な情報交換による病診連携が非常に重要であると考えますので、患者の皆様にもご理解いただければ幸いです。

見沼たんぼに位置して

また、当センターはご承知の通り、見沼たんぼの中にあります。この見沼たんぼは首都圏での貴重な大規模緑地空間地で、自然に恵まれた当センターの環境は素晴らしいものがありますが、これは非常に厳しい開発の制限により保たれているもので、それ故に、当センターの建設にも非常に厳しい制限があります。現在の大きさは現時点で許可されている範囲で最大のものになっており、駐車場の整備を含めてこれ以上の建物の拡張は非常に困難であるとされております。平成20年に竣工いたしました南館も長年にわたる計画を経

てご許可いただいたものですが、この待ちに待った新館の完成後も2年にして、既にセンター内は至るところ手狭になり、特に、外来の診察室、処置室、採血室などでは患者の皆様にも多々ご不便をおかけしておりますが、現在のところ上記の理由により、施設の拡張は容易ではなく、私どもとしても対策に苦慮しているところであります。

学生教育

このように、当センターも多くの課題を抱えてはおりますが、皆様のご支援により、幸いにして全国的にも高度の医療を提供している施設であるというご評価をいただけるまでになりました。今後とも更なる努力を続ける所存ですが、このような最先端の医療を提供できる基の1つは、当センターが大学病院であるということにあります。大学では常に新しい知識や技術の取り入れや開発研究を続けており、常に最良の医療を提供する努力をしておりますが、同時に医学生教育も大事な任務の1つであります。医学教育には医療現場での教育が必須です。当センターでも自治医科大学の学生が勉学に励んでおり、一部の診療行為にも関わっておりますが、診療に関わる学生は、非常に厳しい審査を経て医師に準じた知識と技能を持っていると認められた、Student Doctor（学生医師）の資格を持つ者に限られておりますので、この点についてもご理解いただければ幸いです。

おわりに

当センターがここまで至るには、大学、地元医師会、行政の援助もさることながら、患者の皆様のご支援があつてのことと改めて御礼申し上げます。ここに述べましたように、多くの課題を抱えてはおりますが、今後とも各診療科はもとより、救急部の拡充など、一層、皆様のお役に立てるよう努力を続ける所存ですので、医療における当センターの役割をご理解の上、ご活用くださるようお願い申し上げます。

周産期医療を開始しました

5月17日（月）に、南館4階A病棟がオープンしました。

この病棟は、NICU（新生児集中治療室）、GCU（新生児治療回復室）、新生児一般病床を備えており、新生児の治療を行っています。

またこれに伴い、埼玉県から地域周産期母子医療センターの指定を受けました。



ごあいさつ



産婦人科科長 教授 今野 良

従来からの婦人科診療に加えて、2008年10月から開始した産科は順調に診療を行っており、地域住民の皆様方、医師会をはじめとする医療機関の皆様方のご支援とご協力に御礼申し上げます。

現在、産婦人科では産科の主任である坂田麻理子講師・病棟医長、および、婦人科の主任である根津幸穂講師・医局長を中心に、産婦人科専門医6人を含む9人の医師での診療体制となっております。

産科では、一般的な自然分娩を前提とする方への妊婦検診から分娩まで質の高いケアとアメニティの提供のほかに、合併症を持つ方、胎児の病気を持つ方、早産の危険のある方など高度医療の必要な方への医療を提供しています。また、近隣の医療機関で発生した緊急事態に対する産科的救急診療、緊急帝王切開などのリスクの高い分娩に積極的に対応しています。これらは、新生児病棟（NICU、GCU）における小児科の先生方との密接な診療連携によって達成されています。

そのほかに、産科病棟の助産師・看護師は勿論、手術室の麻酔科医・看護師をはじめとする院内の多くのスタッフによって支えられています。また、埼玉県立小児医療センターや赤十字さいたま病院やさいたま市立病院などとの診療連携も行われています。

産科の受診の際には、紹介状をお持ちいただくことを原則としております。また、10月以降の分娩では、高度医療提供のためのベッドを確保するという観点から、若干の分娩予約制限が必要となる見込みです。皆様方のご理解をお願い申し上げます。

婦人科では、子宮頸癌・体癌、卵巣癌などの悪性腫瘍、腹腔鏡手術や難度の高い良性疾患、子宮内膜症に対する治療などに取り組んでいます。この数年、近隣の医療機関で婦人科疾患の手術を行っているところが減少し、当科へ集中している傾向があります。日夜、積極的に可能な限り多くの手術に取り組んでいます。現在の手術待機期間は良性疾患で約10か月程度になっています。当科以外でも可能な手術の場合には、他の医療機関をご紹介しますが、ぜひ、ご理解のほどお願いいたします。新しい取り組みとしては、昨年承認された子宮頸がん予防のためのHPV ワクチン接種外来を設けました。カウンセリングと接種を事前（電話）予約方式で行っております。

今後も、地域の皆様方に対して、関連の医療機関と密接連携を取りつつ、高度な医療を安全に提供していく努力を重ねて参ります。



小児科科長 教授 市橋 光

平成20年10月6日から自治医科大学附属さいたま医療センターの小児科の診療が開始され、1年半が経ちました。この間、外来患者数、入院患者数ともに増加を続けています。また、医師も当初の4名から10名以上に増加しました。毎日小児科当直医師が常在し、当初と比べると診療内容も充実してきました。

5月17日からは、NICUを含む新生児病棟である4A病棟がオープンしました。最終的には24床の病棟ですが、その半分の12床（NICU 3床、後方病床6床、その他3床）での診療を当面の目標としています。

新生児医療は特殊性が強く、一朝一夕に成し遂げられるものではありません。未熟児・新生児は小さければ小さいほど適応力が乏しく、児の週数や体重によりクベース内の温度や湿度を細かく設定し、ミルクも栄養チューブから場合により1回0.5～1mlから始めるなど、そのケアには細かい配慮が必要です。

今後、当センターの新生児医療を、徐々にではありますが必ず発展・充実させていきたいと考えております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

がんばってます！

スタッフ紹介

糖尿病療養指導士 大塚 潔

糖尿病療養指導士をご存知でしょうか。

この資格は、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師の指示の下で患者の皆さまに熟練した療養指導を行うことのできる医療従事者として、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に与えられるものです。

当センターでも H22年 5 月現在、看護師 1 名、管理栄養士 4 名、薬剤師 5 名、臨床検査技師 1 名が糖尿病専門のスタッフとして、糖尿病患者さまの自己管理（療養）のお手伝いや療養指導を行っています。



前列左より、猪股ふみ子、中元真由子、須鴨智子
木村正彦、大塚潔

私たち、薬剤師による糖尿病療養指導士としての主な業務は、次のとおりです。

- 外来患者さまへのインスリン導入の説明
- 自己血糖測定（SMBG）導入の説明
- 糖尿病教育入院患者さまへの服薬指導
- 糖尿病教育入院患者さまへの講義

血糖自己測定（SMBG）とは

SMBG：Self Monitoring of Blood Glucose の略です。自己血糖測定とは、患者さん自身が日常生活のなかで血糖値を測定することをいい、食事療法、運動療法、薬物療法に次ぐ、第四の治療法ともいわれます。

主な利点として

- ◆ 血糖値を測定することで状態が把握でき、治療への意欲がわきます。
- ◆ 低血糖症状と思われる時や体調のよくない時も、血糖の変化をすぐ把握し早めに対処することができます。

ただし、測定は基本的に簡易方式なので、病院で測る場合と多少ズレが生じることがあります。また、原則としてインスリンを導入していないと、保険の対象外となります。



薬剤師による、外来インスリン・SMBG 導入の様子

これからも、患者の皆さまの生活習慣病の改善のために、少しでもお役に立てるよう、努力してまいります。



湿布薬について

第3回



薬剤部
大谷 幸代

今回は「湿布薬」の話をしましょう。

身近で使用することが多い薬の一つで、病院でもらう薬の他に市販薬もあり、また種類も多いです。湿布薬は、冷湿布または温湿布という「刺激型」と、冷温の区別がなく薬が患部に吸収されることを重視した「経皮吸収型」に分けられます。

冷湿布

冷感刺激のある成分（サリチル酸メチル、メントール等）が入っていて、急性の炎症や痛みを伴う場合に使用

温湿布

温感刺激のある成分（カプサイシン等）が入っていて、慢性化して炎症がなく、お風呂などで温めると楽になるような場合に使用。

経皮吸収型湿布

冷温の区別がなく、消炎鎮痛薬の成分が患部に吸収されることで効果をもたらす。薬が均一に吸収され、1日1～2回の貼りかえで十分効果が得られるようになっています。

また、支持体の違いによりパップ剤とテープ剤（プラスター剤）があります。

パップ剤

不燃布に水分を多く含む状態で、この水分の蒸発により冷却効果があります。水分のぬれを利用した粘着によるため肌に優しいといえますが、その分はがれやすいです。

テープ剤 (プラスター剤)

脂溶性の高分子の基材に、パップ剤に使われている成分と同じ薬剤が含まれています。水分を含まない分、パップ剤ほどの冷却効果がないので慢性疾患

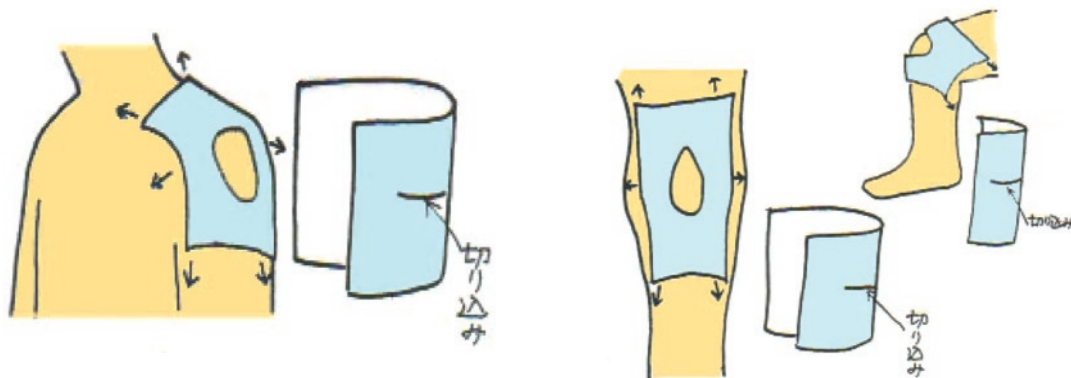
にもよく使われています。より粘着力が高くはがれにくい分、はがすときに刺激があります。

Q and A

Q：「平らでない部位や可動部位に貼るときは？」

A：パップ剤貼り方の一例

- ・肩や膝はパップ剤の真ん中に切り込みを入れ、包み込むようにして貼ります。



- ・切り込みを入れることで、首～肩にかけて貼りやすいです。



Q：「刺激の少ないはがし方は？」

A：一気にとはがさずに少しずつぐるぐる巻き取ると、痛みが少ないようです。

粘着テープはぬるま湯で湿らせてからとはがしてください。

温湿布は、必ず入浴30分以上前にはがしましょう。

Q：「湿布薬でも副作用はあるの？」

A：経皮吸収は内服薬に比べ消化器系への副作用が少ない利点がありますが、皮膚刺激（かぶれ）、また成分により光線過敏症（光接触皮膚炎）を起す報告があります。

長時間の貼付や炎天下での貼付は避けましょう。

いろいろな種類の湿布剤がありますので、症状・それぞれの使用感・使用部位に適した大きさなどを考えて、使用してみてください。

*** 次回は、「お薬手帳」について、お願いと使用方法を取り上げてみましょう。***

お知らせ

ご協力に感謝～平成21年度外来患者満足度調査～

当センターでは、毎年、外来患者の皆様により気持ちよく診療を受けていただけるよう、満足度調査を実施しています。

平成21年度は、平成22年3月15日（月）から19日（金）までの5日間実施しましたが、今回の調査実施にあたりましては、多数の外来患者の皆様にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

調査結果につきましては、院内掲示等によりお知らせしてまいります。いただいた貴重なご意見をもとに、患者の皆様のニーズに応えたよりよい医療の提供、信頼される病院作りを目指して努力していききたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

センター内での携帯電話・PHSのご使用について

センター内での携帯電話、PHSのご使用については、平成22年4月1日から下記のとおり取り扱うこととしておりますので、ご協力お願いいたします。

《センター内の携帯電話使用区分》

区 域	使 用 方 法	該 当 場 所
通話許可区域	マナーモードの設定のうえ、通話・メール（ウェブ）とも使用可。	【病棟】 個室病室、電話コーナー 【外来】 電話ボックス内
通常区域	マナーモードに設定のうえ、通話は不可、メール（ウェブ）は使用可。	【病棟】 多人数病室、デイルーム、食堂 【外来】 中央ホール、各外来待合、入院受付、患者食堂、休憩室
電源 OFF 区域	携帯電話は持ち込まない。 やむを得ず持ち込む場合は、必ず携帯電話の電源を切る。	【病棟】 ICU、CCU、NICU、廊下、本館6階東西病棟（個室を除く） 【外来】 診察室、検査室 医療機器から1m以内にいる場合

《ご使用にあたっての注意事項》

- ・通話許可区域内での通話の際には、音声を下げるなど、マナーを守ってご使用ください。
- ・携帯電話の写真撮影機能の使用はご遠慮ください。
- ・歩行中の携帯電話の使用はご遠慮ください。
- ・病棟での携帯電話の使用許可時間は、6：00～21：00です。
許可時間以外は電源をお切りください。
- ・充電には乾電池式充電器をご使用ください。（院内コンセント使用不可）



南館6階病棟整備工事の実施について

当センターでは、地域の皆様の医療需要に応えるべく、増床及び外来等の改修整備を行ってきたところですが、このたび病棟リニューアルの一環として南館6階に新たに病棟を整備することになりました。

つきましては、以下のとおり工事を実施いたします。

工事期間中は、騒音、振動、工事車両の通行等で大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

工 事 期 間	工 事 場 所
平成22年6月から12月末まで (※工事進捗により前後する場合があります。)	南館6階及び5階(天井の一部)

看護職員を募集しています

埼玉県の中核医療を担う急性期病院として、医療の質向上を進めるためには看護職員の充足が欠かせません。

センターでは中央手術室・集中治療部・新生児病棟等の機能拡大につき、スキルを持つ看護職員を充足させるために、積極的に募集活動を行っています。(6月には埼京線・京浜東北線に募集用電車内

広告を掲示しました。併せて、次年度の看護職員採用に向けた「病院見学説明会」を6月5日からスタートしましたが、その会場にも、中途採用希望者の参加がありました。)

今後の予定として、7/4(日)、8/1(日)、8/11(水)、8/25(水)にも同様の説明会を予定しております(ホームページから申込可能です)。

皆様のお近くに再就職を考えている方がいらっしゃいましたら、是非、当センターをご紹介ください。病院見学説明会にも参加いただき、当センター看護部を知っていただけたら幸いです。

募集パンフレットもすぐに準備できますので、総合案内にお声をおかけください。

この病院で働くことで…自分の看護に誇りが生まれます!

看護職員募集

心臓血管外科をはじめとする幅広い手術に対応
ICU・CCUの拡大
地域周産期母子医療の充実

機能拡大につき手術室、ICU/CCU、NICU/GCUの経験者歓迎!

自治医科大学
附属さいたま医療センター

看護部事務 1300-8503 埼玉県さいたま市大宮区天沼町1-847 内線 2297
TEL.048-647-2111
http://www.jichi.ac.jp/center/kango
大宮駅より直通バスあり

表紙写真

表紙写真

(さいたま市・大崎公園)

緑の広場の大ケヤキ。

木陰でちょっと、ひと休み。

撮影：福沢事務部長

編集後記

夏ならではの濃い木陰に入ると、自然の風の心地よさに、ふと時を忘れてしまいそうになります。暑さ厳しい折、熱中症にはくれぐれもご注意ください。(Y)

